

## 第二期 倫理部会（仮称）第一回会合

倫理部会は25年前、当会の設立直後に立ち上げられた最初の部会である。環境倫理とは何かと言う根本的な議論から始まり、以来、「価値観の転換」を掲げる当会の主要テーマとして、継続的な議論が続けてきた。そして今、世界は脱炭素社会へと大きく舵を切り、これまでの化石燃料に依存した文明から大きく姿を変えることが求められるようになった。

そこで、改めて、脱炭素社会の環境倫理とは何か、求められる価値観、生き方はどのようなものかを議論することになり、その第一回会合が2019年3月23日（土）15:00から、お茶の水の中央大学駿河台記念館会議室で開催された。

参加者は最初の部会メンバーを始め、新たな参加者も加わり、にぎやかな会合となった。

参加者（敬称略）：荒田鉄二、工藤泰子、石川レイ、許斐喜久子、庄司元、田中充、塚本啓之、中山茂、西井淳、藤田成吉、松倉奏江、加藤三郎、藤村コノエ

最初に藤村代表から、環境倫理は当会としては非常に重要なテーマであること、初期の環境倫理グループは1994年8月から1～2ヶ月に一度勉強会を開き、それが、『地球市民の心と知恵 —なぜいま環境倫理か—』『食卓から考える環境倫理 —日本の食卓を取り戻す—』『環境の思想』『生き残りへの選択』などの出版にもつながり、当会の活動のベースになってきたという経緯説明があった。そして、今回は脱炭素社会にどのような生き方・考え方、ルール、もしくは制度が必要かを深掘りしたいとの挨拶があった。

その後、初回ということで、どんな活動を展開したいかなど、自由な意見交換を行った。主な意見は次のとおりである。

### （議論の背景・何を議論するか）

- COP3の頃はもっと環境問題に対する意識を皆が共有していたように思う。最近環境問題はますます深刻化しているのに、環境に対する意識は稀薄になっている。「今だけ、金だけ、自分だけ」、これをどう脱するか？
- 最近感じていることは、環境を保護したいという意識が、ある時代のカルチャーであるに留まり、今は廃れつつあるのではないかと。鳥取の森林管理のボランティアも最近は応募してくる人が減り、高齢化して、先細りになっている。何故、そうってしまったのか？
- 例えば若い世代は公害問題など“生”で知らない。それが大きいのではないか。
- 公害などは目にみえてわかるが、温暖化などはとらえどころがなく問題が起きていても自分事と考えられない。洪水などが起きてそれが温暖化のせいなのかという情報がないのでわからない。
- 学生の環境に対する関心は薄くなっている。環境政策コースの受講者も以前は80人位だったのが今は30人位。その理由は、以前は環境がファッションだったということもあるし、若者の価値観・好奇心が多様化していることも要因ではないか。
- 最近の若い人は環境に興味がない、という話があったが、公害を知らないというのも一因かもしれないが、その他に“余裕がない”という理由もあると思う。今の30代、40代は普通に働いても普通に

生活できる保障がない時代に生きている。それで「環境のことをがんばれ」と言われてもそんな余裕はない。

- 平成大不況の中で、まず自分を守らなければ、となるから「今だけ、金だけ、自分だけ」になる。それが悪いというのではなく、そういう環境になってしまっている状況がある。
- お金も時間もあるのに自分の余暇のためにしか使わない人もたくさんいると思うので、そういう方々にも動いてほしい。
- 一度破局が起きれば、有限の中で生きている、石炭石油ではダメだと身に染みてわかる。
- 成功体験から抜け出すのはなかなか難しい。破局を迎えるまでに方向転換するのは難しいのでは。
- 技術のイノベーションで環境問題を解決できると思っている人が多い気がする。
- ずっと経済成長してずっと豊かになると思っているのでは？環境の限界を超えていることを普通の人はわかっていないのでは？
- 経済が豊かになることだけが幸せではないということを示していく必要があるのでは。
- 新しいものには功罪がある。新しいものができたらそれを社会でどう活用できるかを考える必要もある。
- 「環境文明社会」を経済や技術等、色々な立場からみたらどうか。
- “社会”を明示することが個人の行動を変えるきっかけになるのではないか。
- 人は、社会の在り方を決めたからと言って、それに従うわけではないのでは？
- 世の中は宗教が違うにも関わらず、皆、環境破壊的である。
- なぜ人は環境破壊的なのか。経済学者や社会学者等に聞いてみたい。

## （対象、発信方法等）

- 環境文明の“高級井戸端会議”は本当に高級。勉強にはなるが、今、インターネットの世界で問題になっているように、自分に好ましい情報ばかり取ってそれを世界だと思ってしまい、他の人の価値観に気付かないのではないか。外の人たちの価値観を知る必要があるのではないか。
- 今回の倫理部会は、法制度をつくるのではなく、我々がどうあるべきかを固めるところかと思う。そのための発信方法も考えないといけない。
- まず1年位何が重要なかを話し合う。その後、どうやってアプローチできるか考える。(ex: 学生、子育て世代、サラリーマン)
- 2～3年後に「地球との約束 30」などを作ってはどうか。
- 2～3年でアウトプットを出したい。その前から会報に毎月、議論の状況等を載せたい。
- 知らないが故に動けない人がいると思う。色々な人がいるので、伝え方は一通りではなく色々な方法を駆使する必要があると思う。ただ、その前に伝えるべきことは何なのかをしっかりと議論すべき。
- 小さい破局は既に起きている。その原因は温暖化だということを伝えるべき。

（文責：事務局）

**※倫理部会は、2～3ヶ月毎に開催予定。日程は会報、HPにてお知らせします。**